

真実

作詞 浅羽一 / J'Soul

黒い蝶がひらひらと舞っていた 羽からは黄色い鱗粉がきらきらと
暗い花が満開に咲いていた やがて生まれたのは虹色の甘い果実
目に映る一瞬を切り取って 感触を頼りに繋ぎ合わせ
出来上がる姿がまるで異なるものならば どちらを真実と呼べば良いのか

近づかなければ見えないことは多く 近づきすぎるとぼやけることも多く
遠ざかることで気付く何かがあれば 遠ざかったせいで届かなくなる手も

瞳に映る世界の姿は その心に描かれた想像の結晶で
鼓膜を揺らす世界の響きは その胸に抱かれた願いそのもので
未来が刻一刻の連鎖ならば 想い一つで幾らでも変わるはず

前だけを向いて進んでいる間に 背後では誰か震えてるかも知れず
泣き声に振り返る優しさによって 進むべき方角を見失う時も

大地をつなぐ世界の形は その足が結んだ日常の輪郭で
記憶に宿る世界の全ては その指が作った思い出の切り絵で
未来が今と一続きだからこそ 誤解一つで無残にはしたくない

理解出来ることしか理解出来ない悲しみは
だけど理解し合えぬ現状を諦める理由にはならなくて
分かり合えぬ相手を分かろうとする者だけが
世界に散らばる真実の意味を知る

瞳に映る世界の姿は その心に描かれた想像の結晶で
鼓膜を揺らす世界の響きは その胸に抱かれた願いそのもので
未来が刻一刻の連鎖ならば 想い一つで幾らでも変わるはず